



## 第2会場●2F 自由研修室

■司 会／石井圭一郎 大分県教育庁生涯学習課 社会教育主事  
西山香代子 山口ネットワークエコー 代表

### 分科会の進め方

13:30 ~ 13:35

### 1 官民協働の「総合型」子育て支援システムの発想と展開—通常支援・病後支援・緊急支援3部門の確立— 13:35 ~ 14:05

山口ひろみ（佐賀県唐津市） NPO 法人唐津市子育て支援情報センター センター長

H16年センター設立。子育て不安に関する情報・ニーズに対応するため、官と民の協力体制を前提として、窓口を一元化した。事業の運営はNPOが主体となっている。子育ての過程における安心の条件を、「通常支援」、「病後保育支援」、「緊急サポート」に分類し、1つの組織内で上記3分野に対応する事業を発展的に積み上げ、拡充して展開している。

### 2 『高須ふれあいお月見コンサート』企画・プロセス・成果・展望 14:10 ~ 14:40

八木晶子（広島市高須） 高須文化振興委員会 代表

社会教育主事研修における課題の事業化が出発点。地域の機関、団体、人材の力を総合化できる「高須文化振興委員会」を結成。多世代交流、経費節減の事業企画、地元人材のためのステージの創造、学校との連携、諸団体の協力体制の構築、季節を生かしたバラエティに富んだプログラムの演出を目指して、標記の文化交流事業が実現した。

### ティータイム

14:40 ~ 15:05

### 3 4つの地区公民館—「失敗から学ぶ」4つの通学合宿—地域で支える通学合宿— 15:05 ~ 15:35

熊 元（長崎県長崎市野母崎地区） 長崎市教育委員会野母崎教育センター

事業の主催は野母崎地区内4校区の地区公民館長、共催として小学校長及びそれぞれのPTAである。始まりはH10年の教頭先生と子ども達の非公式合宿。目標は子どもの日常生活の自立。宿泊拠点は地区公民館。役割分担、メニューの決定、買い物、食事の準備、後片付け、洗濯、掃除など、日常の必須作業を全て子どもの手で行う。地域のもらい風呂や送迎ボランティアのお世話になり、あわせて長崎大の学生の支援も仰いでいる。

### 4 「えびの知っ徳・納得塾」—市民主催の「行政勉強会」と「地産食材賞味会」— 15:40 ~ 16:10

本田英俊（宮崎県えびの市） きりしまローズボナーレ 代表

2006年から月1回の市民勉強会と交流会を開設。行政情報の共有と地もと産品の理解と賞味を目的とし、公募、会費制で拠点はえびの市国際交流センター。現会員は市民40名、スタッフ7名。情報の提供者は主として行政職員、議員などで、学習のスタイルはセミナー形式のグループ討議を採用している。塾生の中から新しい活動がスタートしている。